

相模原市立博物館常設展示室 リニューアル構想

令和 8 年 1 月
相模原市立博物館

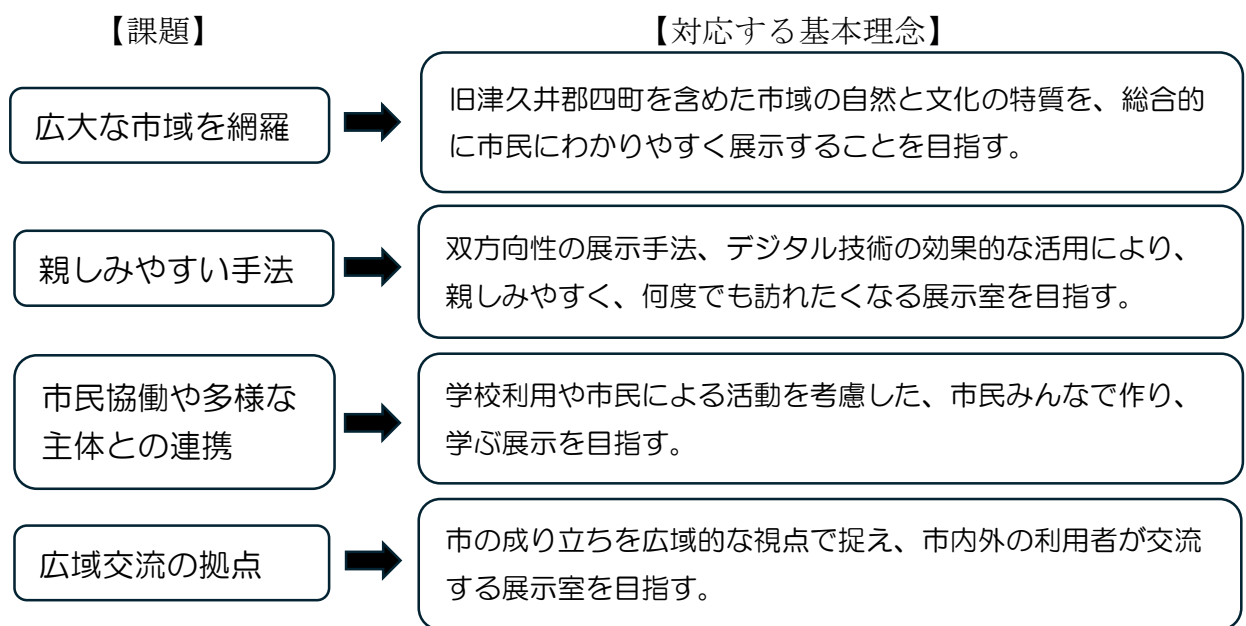
1 博物館をとりまく現状と課題

相模原市は、郷土の自然と文化並びに天文に親しむとともに、これらに関する理解を深める場を市民に提供することにより、郷土を愛する心をはぐくみ、生涯学習の振興を図り、もっていきいきとした市民文化の創造に寄与することを目的として、平成7年11月に相模原市立博物館を設置した。

開館以来30年の間に、市民との連携による調査・研究の進展とともに、収蔵資料は増加を続け、現在では25万点を超えている。また、市民の郷土学習の拠点として、年間を通じて企画展や講座等を開催し、JAXAや銀河連邦との連携事業など宇宙教育にも積極的に取り組み、令和7年末現在で来館者は380万人を超えている。

当館の特色である市民協働や地域の多様な主体との連携による事業をさらに発展させていくためには、より市民に親しまれる展示手法「双方向性の展示」などを最新のデジタル技術を活用して導入するとともに、旧津久井郡四町を含めた相模原市の自然や文化の特徴や課題に加え、他地域との広域的な交流の視点を市民にわかりやすく提供する常設展示の改修が求められている。

常設展示を改修し展示教育活動で対応すべき課題と対応する基本理念



2 リニューアルの目標

『過去の礎を知り、探究心を抱いて未来へ』

常設展示を見た人が、相模原の多様な自然と文化、歴史の礎を知り、さらなる探究心を胸に、市域に残る自然・文化遺産や、現在の姿を見て歩きたいような展示を目指すとともに、相模原の未来像を描きたい展示を目指す。

3 リニューアルの方針

(1) 自然・歴史（人文系）展示

地質分野、考古・歴史分野、動物・植物分野、民俗分野から構成する。各分野の市民との協働による研究成果を生かし、旧津久井郡四町を含めた市の魅力と特質が来館者にわかりやすい展示とする。

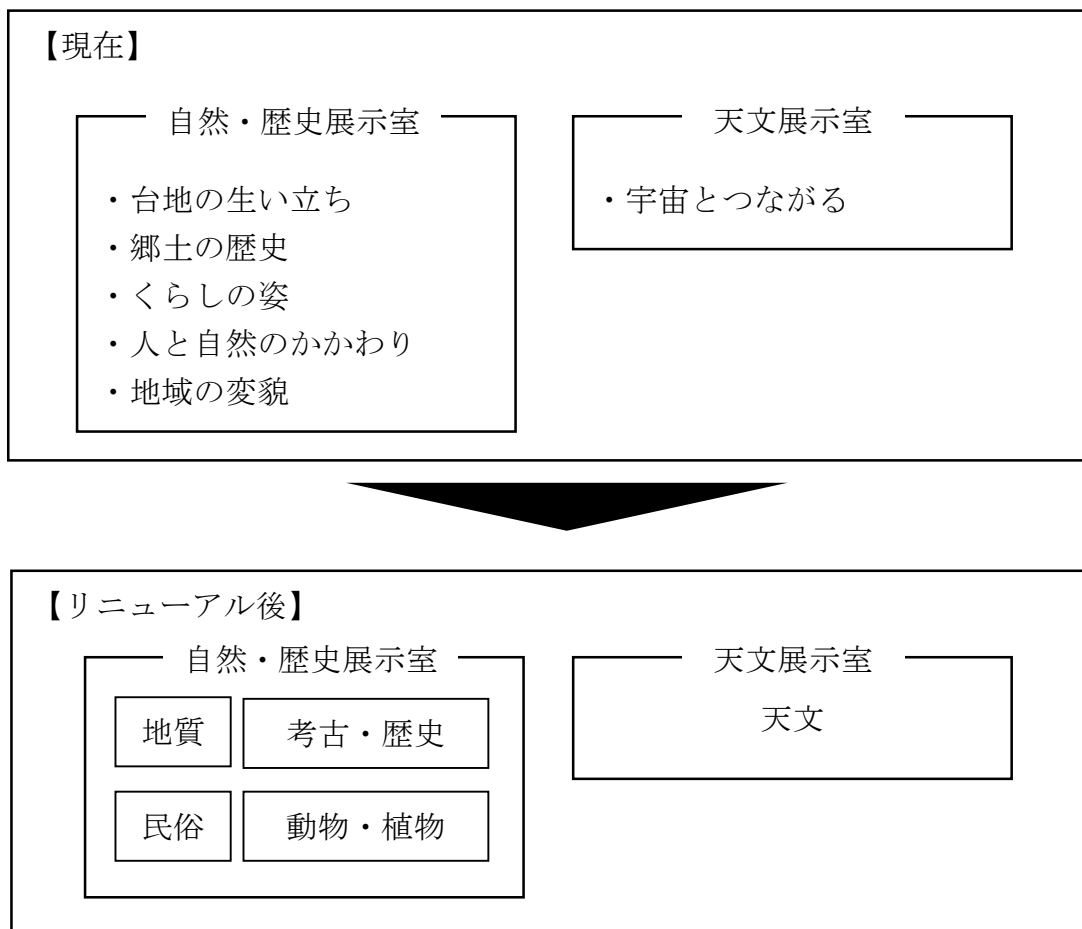
(2) 天文展示

地球大気や宇宙の階層構造について触れ、地球、そして私たちは広い宇宙の一部であることへの再認識を促し、来館者が宇宙を身近に感じられる展示とする。

(3) 展示手法

展示は実物資料を中心とし、資料に触れたり体験できる場、デジタルアーカイブと連携した最新のデジタル技術を活用した鑑賞体験の場も取り入れる。
また、多様な利用者を受け入れるための鑑賞環境を改善する。

(4) ゾーン構成



(5) 展示構成例

自然・歴史展示室

地質	テーマ例：相模原の大地の成り立ち
西部の山地と東部の台地で大きく異なる相模原市の地形・地質の成り立ちなどについて紹介する。 内容例：関東山地・丹沢山地の岩石、相模野台地の地層など	
考古・歴史	テーマ例：大地からのメッセージ
相模原市の山地と台地という対照的な地勢に形成された歴史や文化、近代以降の地域社会の変貌、郷土の偉人などを紹介する。 内容例：縄文集落、津久井城、甲州道中、新田開発、軍都計画、尾崎行雄など	
民俗	テーマ例：相模原 再発見
祭礼、芸能、生活道具などから市域の特色ある文化や人々のくらしの変化などを紹介する。 内容例：ムラの行事、養蚕農家、相模原の民俗学研究者 鈴木重光など	
動物・植物	テーマ例：響きあう自然
山地、川、台地といった多様な自然環境のほか、そこで育まれた特色ある生きものたちの生態と多様性などを紹介する。 内容例：山の自然、まちの自然、生物多様性など	

天文展示室

天文	テーマ例：相模原から宇宙へ
地球大気や宇宙の階層構造を主軸として、太陽やプラネタリーディフェンスといった生活に身近な宇宙や人類の宇宙探査・観測の成果などを紹介する。 内容例：地球大気の鉛直構造、隕石、太陽の映像、人工衛星・惑星探査機、宇宙の階層構造など	

4 リニューアル事業計画

年次計画

令和8年度 展示基本設計

令和9～10年度 展示実施設計・展示製作

＊展示製作の期間中は全面閉館の形は取らずにプラネタリウム、市民研究室、天文研究室及び資材置き場等の工事エリアに属していない部分は開館する。